

古事記卷第一より

天照大神と建速須佐之男命、天安河に対決する

かれここに はやすさのおのみこといひしく 速須佐之男命言 然者 請 天照大御神將罷 乃 參上天時

やまかわ こゝろに 山川悉動 國土皆震 爾 天照大御神聞 驚而詔 我那勢命之上來由者

かならずよき こゝろならじ 必 不善心 欲奪我 國耳 卽解御髮纏御美豆羅而 乃 於左右御美豆羅

また みかづらにもまたさゆうのみてにも 亦於御纒 亦於左右御手 各 纏持八尺勾璉之五百津之美須麻流之珠 而

音下 そびらに 曾毘良邇者負千入之鞞 訓入云能 自曾至 比良邇者附五百入之鞞 亦所取佩伊都

と りお 之竹鞞而弓腹振立而 堅庭者於向股蹈那豆美 如沫雪蹶散而 伊都之男建

多 ふみ 踏建而待 問 何故上來

爾 速須佐之男命答白僕者無邪心 唯大御神之命以問賜僕之哭伊佐知流之

事故白都良久三字 僕欲往妣國以哭 爾 大御神詔 汝者不可在此國而

神夜良比夜良比賜故 以爲請將罷往之狀 參上耳 無異心 爾 天照大

御神 詔 然者汝心之清明 何以知 於是速須佐之男命答白 各 宇氣

比而生子

故爾 各 中置天安河而宇氣布時 天照大御神先 乞 度 建速須佐之男命

所佩 十拳劔、打折三段而奴那登母母由良邇 振滌天之眞名井而佐賀美

邇迦美而 於吹棄氣吹之狹霧所成神御名 多紀理毘賣命 亦御名謂

おきつしまひめのみこといふ つぎにいちきしまひめのみことまたのみな さよりひめのみこといふ つぎにたきつひめのみこと
奥津嶋比賣命 次市寸嶋比賣命 亦御名謂狹依毘賣命 次多岐都比賣命

三柱此神名以音 速須佐之男命 乞度 天照大御神所纏左御美豆良八尺勾聰之五百津之美

須麻流珠而奴那登母母由良邇振滌天之眞名井而佐賀美邇迦美而於吹棄氣吹之

狭霧所成神御名 正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命 亦乞度 所纏右御美豆良之

珠而佐賀美邇迦美而於吹棄氣吹之狹霧所成神御名天之菩卑能命 自善下三字以音

亦乞度 所纏御縵之珠而 佐賀美邇迦美而於吹棄氣吹之狹霧所成神御名

天津日子根命又乞度 所纏左御手之珠而佐賀美邇迦美而吹棄氣吹之

於狹霧所成神御名活津日子根命 亦乞度 所纏右御手之珠而佐賀美邇迦美而

於吹棄氣吹之狹霧所成神御名 熊野久須毘命 自久下三字以音 并五柱

於此にあまてらすおほみかみ はやすさのをのみことにのらしく このあとにうまれしつはしらのをこのは ものざねはあがものによりて
於是天照大御神、告速須佐之男命 是後所生五柱男子者 物實因我物所
成故自吾子也 なれりかれおのずからあがこなり さきにうまれしみはしらのおみなごはものざねいませがものによりてなれり かれすなはいませがこなり
かくのりわけたまひませ か 如此詔別也。

参考 古事記卷頭より 伊邪那岐と伊邪那美が淤能碁呂嶋を作る場面

ここにあまつかみのものつものみこともちてみことりす いざなぎのみこといざなみのみことのはしらに このただよへるくにををさめつくり
於是天神諸命以詔 伊邪那岐命伊邪那美命二柱神 修理固成是多陀用幣流

之國 賜天沼矛而言依賜也 故二柱神 立 あめのうきはしにたしてそのぬほこをさしおつしてもちてえがけば 天浮橋 而指下其沼矛以畫者

鹽許々袁々呂々邇 しおこをろこをろに 畫鳴 えがきなし 而引上時 自其矛末垂落之鹽 累積成嶋 是 ひきあぐるとき そのほこさきよりしたりおつるしおかさなりつもりてまをなす これぞ

淤能碁呂嶋 おのころじま 自淤以下四字以音